

[た よ り]

千葉県支部だより

横山健郎

1 会の構成

本会は、千葉県透析医会と称し、(社)千葉県医師会と(社)日本透析医会の下部組織の立場をとり、透析療法の向上発展に努め、地域における透析医療に貢献し、併せて会員相互の福祉、親睦を図ることを目的に賛同する会員58名で構成されています。

組織は下記の役員9名で構成され会の運営にあたっています。

会 長 横山健郎
副会長 吉田豊彦
幹 事 入江康文, 茅野嗣雄, 鈴木 満, 田島知行, 田畑陽一郎
監 事 畠 亮, 原 徹

事務所を千葉県千葉市美浜区真砂3丁目13番地6号医療法人社団誠仁会みはま病院に置いています。

2 これまでの主な活動

上記に掲げた役員は極め付きの活動家が多く、その活躍の場も多岐にわたって広く意欲的に及んでいます。

日本透析医会の役員では、吉田豊彦(副会長)、鈴木満(監事)、日本医師会には、鈴木満(代議員)、千葉県医師会には、鈴木満(理事)、田島知行(理事)、千葉市医師会副会長には入江康文など透析医会の枠を超え、医師会活動も活発に行っている状況です。これらの役員らの活動と本会の活動が評価され、平成10年千葉県医師会の30年振りの公認医会になりました。現在の活動のうちユニークなものを紹介します。

3 感染症委員会活動

感染症委員会では、感染性廃棄物に対する調査、啓蒙活動を行っています。最近の主な内容は以下の通りです。

- ① 平成8年から2年ごとの感染性廃棄物に関するアンケート調査
- ② 千葉県透析研究会への過去3回行ったアンケート調査の報告、発表
- ③ 千葉県地区医師会医療廃棄物担当理事懇談会に透析医会として参加
- ④ 他県医師会からの透析関係廃棄物処理費用の問い合わせへの対処

本年度で4回目の調査は、調査年度6, 7, 8月、3カ月間、本会が医院施設を対象に施設の概要、延べ透析回数、処理業者への委託状況、感染性廃棄物の総重量、処理委託費用について無記名・郵送方式で行いました。透析施設が、自ら排出責任のあることの自覚と、社会的責任を訴えたところ78%の高回答率を得ました。4回にわたる調査の集積と分析は、透析施設側が行ったものとしては非常に貴重であり、地域内処理状況把握に向け追加調査集計中であります。これらの結果は、日本透析医会雑誌に掲載されております。今回、他県からの問い合わせに対し、私どもの具体的データを示し、処理費用についても廃棄物処理業者側の数値とほぼ妥当性を認め、適正処理費用に対し、医療機関側から出す数値の重要性も認識されました。また、千葉県地区医師会医療廃棄物担当理事懇談会は、本来、地区

医師会が対象の会議であります。特に感染性廃棄物排出量の多い透析施設の参加の必要性を、関係理事の方々が強力に押し進めていただいた結果、医会として特別に参加することができました。

4 災害対策委員会活動

1995年1月17日の阪神・淡路大震災は同地域に壊滅的な損害をもたらしました。千葉県透析医会でも組織として、また、ボランティアとして出来得る限りの協力をしました。その後、医会内部で大規模災害に関する対応手段の研究機運が急速に高まり、情報ネットワークの構築、一般受傷者の急性腎不全への対応、地域透析患者の水資源・医療材料確保、臨床工学技士の確保等々の研究を進めてきました。

特に災害時の情報ネットワーク構築には、千葉県臨床工学技士会の全面的協力により1996年4月の第1

回から、同年9月、1997年9月、1998年12月と計4回の情報伝達訓練を実施し、ここで得られたノウハウを活かしながら、パソコン通信をベースにしたものから、集計用ソフト利用、インターネットホームページを利用したシステムへと改善を行ってきました。これらの実績は高く評価され、インターネットを利用したシステムが、(社)日本透析医会災害時情報ネットワーク、長野、栃木、鹿児島各県透析医会に採用されています。なお、(社)日本透析医会から災害時の情報拠点として千葉が指定されています。

一方、当然のことながら、水、電気などのライフライン、さらに医療材料の確保、要員・人員確保、交通手段の確保のためには、行政の認知が不可欠であることから、千葉県医師会の分科会として、救急医療システムの構築に向け活動を行っています。